

遠隔講義を開講して

佐渡山 亜 兵

総合科目系

25年間の研究職から教育職に転職して3年目。講義の準備に追われる毎日で、とても共通教育のカリキュラムなどに目を向ける余裕などない。

教養部の廃止、共通教育センターの設置、全学出動体制などなど、どのような経緯でそうなったのか全く知らないまま、気が付けばいつのまにか教務委員長であった。

分属された教官が専門科目に専念するため、共通教育科目を一つ減らすことによって、学部が分担する総合科目をその分、開講しなければならないという問題が持ち上がった。各学科にお願いして、新たに開講科目の検討をお願いしたが、どこも他人ごとのようで、積極的に対応してもらえなかった。結局は当該学科が責任を負うことになってしまったのである。

やむなく、そこで考え出した苦肉の策が「遠隔講義システムを活用したリレー式講義」であった。担当する先生方のうち、松本におられる先生が3人。常田キャンパスが8人である。こちらから松本に出向いて講義することも考えて、時間割を2コマ目より後の時間帯ということでお願いしたにもかかわらず、SUNSの都合で1コマ目に割り当てられてしまった。

第1回目の授業はこちらから先生に出向いていていただいて、講義の概要とイントロをお願いした。ところがSUNSの講義室に入りきれない学生が部屋の外にまで溢れ、混乱状態。それに加えて、音声は他の講義の音声と混線して、マイクが使えない状態であったという。やむなくマイクをあきらめ、とにかくその場の講義は一応終えたということでした。その先生いわく。「もうむちゃくちゃだった」のだそうである。

以後、教務係の人に毎回講義の開始時に立ち合っていていただいて、遠隔装置の状態をチェックしてもらいながら授業を進めることになった。私としても、最後までちゃんと遠隔システムがうまく動作してくれるかどうか不安で、4、5回は他の先生方の授業を拝見させていただいた。途中で音声途切れたり、画像が見えなくなったこともあったが、後半はどうにか乗り切ることができた。もう少し、こうしたシステムが整備されていたら、もっと良い講義ができたのにと、残念でならない。

共通教育の全学出動体制といわれながら、多くの先生方がいまひとつ積極的になれないのは、松本に出かけていくという、距離的、時間的問題である。

今年度中には新しい遠隔講義システムが導入されるという。複数のこうしたシステムが整備されたなら、共通教育がもっとやりやすく、より内容の充実したものになっていくと思われる。このシステムの効果的な活用を期待したい。